

# 週報

【2019/8 第3例会】

例会日: 毎週金曜日  
 例会場: 碧海信用金庫本店3F  
 安城市御幸本町15-1  
 TEL: 0566-75-8866  
 FAX: 0566-74-5678  
 Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp  
 HP: <http://www.anjo-rc.org>

## 第3009回例会

2019年8月30日(金) 12:30~13:30

司会者: 成田 孝則君

ソング: 「それでこそロータリー」

卓上花: トルコキキョウ・かすみ草

ニコボックス報告: 山口 研君

ゲスト及びビジター:

キャロライン・リガリさん 2019-20年度青少年交換学生 カナダ

2019-2020年度RIテーマ:

「ロータリーは世界をつなぐ」

安城ロータリークラブ会長方針:

「明日(未来)へつなぐ」

■会長: 寺田 孝司

■幹事: 加藤 正人

■クラブ会報: 服部 敦・岩井 春次・都築 雅人

■創立日: S33年1月10日

■RI加盟認証日: S33年2月6日



### ■ 会長挨拶

寺田 孝司会長



### ■ 出席報告

本間 育子さん

会員	54名
出席義務者	42名
出席	43名
欠席	6名
出席免除者の出席	7名
出席率	87.75%
修正出席率	

### ■ 幹事報告

加藤 正人幹事

1. カナダより青少年交換学生のキャロライン・リガリさんが来日しました。愛称は「キャロ」です。1年間宜しくお願い致します。
2. 例会終了後会議室にて第1回IM実行委員会を開催いたします。
3. 2018-19年度 年間総合報告書が出来ました。
4. 9/6(金) 例会終了後に理事会を開催いたします。
5. 10/12(土)ワールドフード+ふれ愛フェスタ会場への移動例会の時間は12:00~となりました。その後観劇同好会企画、御園座にて「第50回 吉例顔見世」を行います。(講演会有)



### ◆ 卓話

担当: 青山 竜也君

#### テーマ「世界の騙し方」

今回の卓話のテーマは「世界の騙し方」という大袈裟なタイトルですが、なんのことはありません。私の好きなオカルト関係の話を披露しようと思います。

私は昔から不思議なものが大好きでしたし、実は今でも大好きです。

子供の頃はUFO番組の特集などを心躍らせながら見ていた純粋な少年でした。しかしながら、その半面科学的なことも大好きで、その不思議な現象を科学的に考えることも大好きでした。

今回の卓話では、まだインターネットなどなかった古き良き時代に流行し、誰もか聞いたことがあるであろうオカルト話をいくつか紹介しながら、その真実の後日談を紹介しようと思います。



### No.1 捕まった宇宙人



- ・1950年頃、西ドイツのケルンの新聞に掲載されたらしい
- ・メキシコシティ付近に墜落したUFOから発見された宇宙人だと言われる
- ・墜落したUFOには2人の宇宙人がいて、1人はすでに息絶えていた
- ・宇宙人を捕まえたのは、アメリカのCIAとも、FBIとも、旧ソ連(現ロシア)のKGBとも言われる
- ・調査のためにドイツに送られた
- ・亡くなった宇宙人の体はアメリカのライトパターソン空軍基地に運ばれ、冷凍保存されている

噂



### No.1 捕まった宇宙人



- ・ドイツはケルン市の週刊誌「Neue Illustrierte(ノイエ・イルストリーアテ)」の創刊号に掲載された
- ・1950年3月29日発売、4月1日号3ページ
- ・4月1日号、つまりエイプリルフール記事だった

真相



### No.2 ネットシーの有名な写真



- ・ロンドンの外科医、ロバート・ケネス・ウィルソンが撮影
- ・1934年4月の早朝、友人と共に鳥の写真を撮りにネス湖を訪れ、突然湖面に現れたネットシーを持ってカメラで撮影した
- ・この写真はデイリー・メール紙に掲載され、「外科医の写真」と称されて話題を呼んだ
- ・首長竜を思わせる長い首がはっきり写されており、長らくネットシーの代表的写真として知られてきた

噂



### No.2 ネットシーの有名な写真



- ・しかし1993年11月、外科医の友人だというクリスチャン・スパーリングが死の間際に、この写真がトリックであったと告白した(その4ヶ月後に死去)
- ・おもちゃの潜水艦に30センチメートルほどのネットシーの首の模型を付けた物を撮影したという
- ・知人であるウィルソンの「医師」という社会的地位に目をつけ、偽証を依頼
- ・エイプリルフールのジョークのつもりだったが、世界的な話題になったことで引くに引けなくなった
- ・この告白は翌1994年3月、イギリスのサンデー・テレグラフ紙に掲載された

真相



### No.3 アダムスキー型UFO

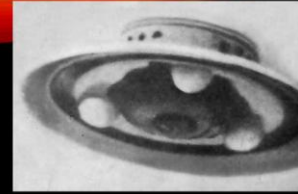


- ・1952年12月13日の撮影
- ・UFO研究者、UFOカルトの祖であるアダムスキーによる撮影
- ・「宇宙人と会った」と自称したコンタクトの元祖として知られるポーランド系アメリカ人
- ・彼が撮影した空飛ぶ円盤は、いわゆる「空飛ぶ円盤」の典型的なイメージとなっており、影響は大きい

噂



### No.3 アダムスキー型UFO



- ・頭部部分はランタンの金具を外して使用、下の丸い部分はピンポン玉
- ・ランタンは米国Sears社が1930年台に販売を開始した(Model L46S)ということが判明
- ・ランタンの吊り下げ金具を取り付ける四角い穴と、円盤船体の穴の形状と位置の正確な一致など、多数の一致が見られる
- ・船体がランタン利用だと仮定した場合、卓球のピンポン球の直径(当時の規格の38mm)とピッタリ一致

真相



### No.4 妖精の写真



- ・今から100年近く昔、1917年にイギリスの田舎町「コティングリー」で撮影された写真
- ・写真を撮ったのは2人の少女。エルシー・ライト(当時11歳)とフランス・グリフィス(当時16歳)
- ・撮影時期は1917年7月～1920年8月までで全5枚
- ・少女たちはいつも妖精と遊んでいると主張するが大人には相手にされなかった
- ・そこで父親からカメラを借りて撮影、父親が現像をすると、そこには妖精の写真が...

噂



### No.4 妖精の写真



- ・父親はアマチュアカメラマン、迷ったカメラは「W Bulcher & Sons」の「ミゼット」のクォータープレートカメラ
- ・父親は頭から偽物と決めつけて相手にせず、ただ母親はこれを信じていました。
- ・1919年に、エルシーとフランスの母親は、プラットフォームで開催された神智学協会の宴会に出席。そこで、「妖精と他の神話の生き物たち」というテーマで話をしました。
- ・宴会に出席した女性メンバーたちは彼女の話を信じ始めました。そして、この件は当時有名な小説家であったアーサー・コナン・ドイルの関心を惹くことになる。
- ・コナン・ドイルは、当時、英国スピリチュアリズム協会の主要メンバーであり、神智学に対し強い関心を寄せていました。コナン・ドイルがこの写真のことを知ったのは1920年5月と自著に書いています。

噂



### No.5 ミステリーサークル

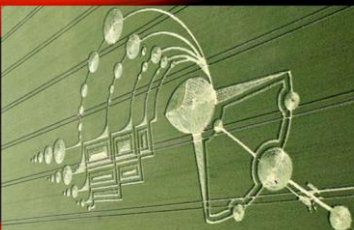


- ・初期には単純な円形、次第に複雑化
- ・宇宙人やUFOを原因とする説が目立つが、より科学的なマイクロバースト、プラズマを理由とする論調も多かった
- ・初期の頃は土曜日の朝の発見が多かったが次第に月曜朝の発見が増加
- ・あまりにも幾何学的な形状が現れること、あるいは、作物が纏み込むように倒れていることが、人間の作業ではないことを物語るとされた

噂



### No.5 ミステリーサークル



- ・1991年、イギリスのダグ・パウワーとデブ・チャーリーという老人2人組が「ミステリー・サークル」の製作者として名乗りを上げる
- ・皆の目の前で、比較的短時間で簡単な道具のみで「ミステリーサークル」を作成してみせる
- ・この実証により一時騒がれた超常現象説は急速に廃れて人為的な創作物とされた

真相

